

関西大学

東西学術研究所紀要

50

◆中谷伸生「文化交渉学としての日本美術史学」 ◆玄幸子『『廬山遠公話』校訂上の諸問題』
 ◆長谷部剛『堀辰雄の杜甫訳詩について（承前）』 ◆高橋（前原）あやの『中山城山『校正天文訓』（第一段～第五段）の訳注と流布本の検討』 ◆野間晴雄『河野通博が語る戦中期から戦後における日本の中国地域研究と国際交流の足跡』 ◆関屋俊彦『大阪府立中之島図書館蔵『狂言世利不』について』 ◆姚晶晶『『諸道勘文 神鏡』所引『唐曆』新出逸文の紹介と検討——唐代の銅魚符制度を中心に——』 ◆奥村佳代子『『唐話纂要』の「三字話』』 ◆松浦章『三北輪埠会社の汽船航運業について』 ◆二階堂善弘『東アジアの伽藍神信仰』 ◆和田葉子『“Seue yere in swineis dritte”: a penance in a Middle English satirical poem, *The Land of Cokaygne*, in London, British Library, MS Harley 913』 ◆パトリック・オニール『The unidentified “Wlonchargan” of the Middle English poem *Sarmun* in British Library, MS Harley 913』 ◆三村尚彦『「建築する身体」と「ランディング・サイト』』 ◆岡立『20世紀初頭の東三省における開市開港と門戸開放政策』 ◆塩山正純『エドキンズの官話教科書が記述したことから』 ◆朱鳳『何礼之とその翻訳書について——『政治略原』の漢字翻訳語を中心に』 ◆稲垣智恵『新興語法“V着”に関して——『二十年目睹只怪現狀』の例を中心に』 ◆熊野弘子『曲直瀬道三の察証弁治と中国医法の受容——腰痛を中心に』 ◆施燕『源豊宗の美術史の形成をめぐる——その人物と学問——』 ◆高橋沙希『デッサンからみた青木繁作品』 ◆中村朋美『ロシア帝国と広東貿易——19世紀初頭の東アジア海域におけるロシアの貿易構想——』 ◆辜承堯『青木正児における中国民俗の研究——『北京風俗図譜』と『支那童謡集』を中心に——』 ◆李晚辰『京城帝国大学文科助手会と会報『学海』』 ◆佐藤トウイウエン『フランスのBibliothèque Universitaire des Langues et Civilisations (BULAC)、大学間共同利用言語・文化図書館』に所蔵されている「訓女子歌」文献について』 ◆孫知慧『元暁の思想展開における「門・二門」の意味』 ◆横山俊一郎『永田仁助の経済倫理——天人未分と武士道の問題——』 ◆毛利英介『1075年遼宋国境画定交渉（於開封）について——『梁顥墓誌』理解のために——』 ◆高田時雄『内藤文庫から新たに発見されたウイグル木活字』 ◆岡村心平〔訳〕『アラカワ+ギンズ：有機体—人間—環境プロセス ユージン・ジェンドリン [原著]』 ◆祁小春『唐代書儀と王羲之尺牘との関係について』 ◆張凌雲『内藤湖南筆下の文廷式印象及其評價』 ◆東西学術研究所 2016年度 研究班一覧表

二〇一七年四月

関西大学東西学術研究所

東西学術研究所紀要

第五十輯

二〇一七年四月

関西大学東西学術研究所

BULLETIN OF THE INSTITUTE OF ORIENTAL
AND
OCCIDENTAL STUDIES, KANSAI UNIVERSITY

No. 50

APRIL 2017

CONTENTS

◆NAKATANI Nobuo [Reconstructing Studies of Japanese Art History as Cultural Interaction Studies]
 ◆GEN Yukiko [On various issues in recension of Lushan YuanGong Hua (廬山遠公話)] ◆HASEBE Tsuyoshi [On the Japanese Translation of Tu Fu's poems by Hori Tatsuo] ◆TAKAHASHI (MAEHARA) Ayano [Translation and Commentary of Nakayama Jozan's "Proofreading of the Astronomical Chapter in Huainanzi" (paragraph 1~5) and Investigation of the Popular Edition] ◆NOMA Haruo [Kono Michihiro's Course of China Study and International Academic Exchange during and after World War II: A Narrative Record] ◆SEKIYA Toshihiko [Introduction of *Kyogen Serifu* Owned by the Osaka Prefectural Nakanoshima Library] ◆YAO Jingjing [Introduction and Consideration of the Lost Document *Tang Li* in *Shodō Kanmon Shinkyō*: Focusing on Tong Yufu of the Tang Dynasty] ◆OKUMURA Kayoko [Study on *Towa Sanyo's* "Sanjiwa"] ◆MATSUURA Akira [The Chinese Coastal Shipping Business of the Sanbei-lunbu Gonshi] ◆NIKAIIDO Yoshihiro [On Temple Guardian Gods in East Asia] ◆Yoko WADA [“Seue yere in swineis dritte”: a penance in a Middle English satirical poem, *The Land of Cokaygne*, in London, British Library, MS Harley 913] ◆Patrick P. O'Neill [The unidentified “Wlonchargan” of the Middle English poem *Sarmun* in British Library, MS Harley 913] ◆MIMURA Naohiko [“Architectural Body” and “Landing Sites”] ◆YAN Li [Open Ports in Manchuria and Open-Door Policy in the Early 20th Century] ◆SHIOYAMA Masazumi [Analyzing the Characteristics of the Mandarin Dialect in Edkins's Chinese Mandarin Textbooks] ◆ZHU Feng [A Study on Ga Noriyuki and His Translation—— Focus on *An introduction to Politics* and Translation Words in Chinese Characters] ◆INAGAKI Tomoe [On the Usage of “zhe” as a New Grammatical Term: Focusing on the Usage of “*Ershi nian mudu zhi guai xianzhuang*”] ◆KUMANO Hiroko [MANASE Dosan's Satsusho Benchi: Focusing on Lumbago] ◆SHI Yan [The Formation of Minamoto Toyomune's Art Historical Study—— Personality and Scholarship——] ◆TAKAHASHI Saki [Sketches of Aoki Shigeru] ◆NAKAMURA Tomomi [The Russian Empire and Guangzhou Trade: The Trading Design of Russia in the Seas of East Asia in the early 19th Century] ◆GU Chengyao [A Study on Aoki Masaru's Chinese Folklore Research—— Focusing on *Beijing Hūzoku Zuhu* and *Shina Dōyōsyū*——] ◆LEE Hyojin [The ‘Assistants Association of the Department of Liberal Arts’ at Keijō Imperial University and Journal *Gakkai*] ◆Sato Thuy Uyen [Survey of 『訓女子歌』 held at the University Library for Languages and Civilization Studies (BULAC) in Paris] ◆SON Jihye [The Meaning of ‘a Gate and the Two Gates’ in the Thought Development of Wonhyo] ◆YOKOYAMA Shunichiro [Nagata Nisuke's Economic Ethics——the spirit of Tenjin-Mibun and Bushido——] ◆MORI Eisuke [On the Territorial Negotiation between the Liao Dynasty (Khitai) and the Northern Song in Kaifeng, 1075] ◆TAKATA Tokio [Uighur Wooden Movable Types Newly Discovered in the Naito Collection] ◆Translated by Shimpei OKAMURA [Arakawa and Gins: The Organism-Person-Environment Process. Eugene Gendlin] ◆QI Xiaochun [The relationship of Tang period writings and the literary letters of Wáng Xizhi] ◆ZHANG Lingyun [Naito Konan, Wen Tingshi, impressions, evaluation] ◆Summaries of the Reserch, 2016

EDITED BY
THE INSTITUTE OF ORIENTAL AND
OCCIDENTAL STUDIES
KANSAI UNIVERSITY, OSAKA

編集後記

気がつけば、桜吹雪の季節も終わり、キャンパスには強い日差しの中でツツジが咲き誇っている。季節は巡って、今年で関西大学東西学術研究所『紀要』創刊五十周年を迎えた。創刊号が出た一九六八年、樺太ギリヤーク語やチベット語に造詣の深かった高橋盛孝氏が第四代所長、そして、日本古代史と仏教史が専門の蘭田香融氏が編集委員長であった。第一輯の執筆者は吉永登氏（国文学）、横田健一氏（日本古代史）、小川悟氏（ドイツ文学、文化史）、大庭脩氏（日本と中国の歴史学）、高橋盛孝氏（前掲）、藤本勝次氏（中東イスラム学）、重本利一氏（フランス文学）という関西大学の七人の侍ともいべき錚々たるメンバーである。東西学術研究所設立の趣旨に相応しく、東西両洋に亘る地域の研究成果が掲載されている。時の流れは早いもので、半世紀が経過しているにもかかわらず、高橋先生を除いて上述の執筆者たちをよく覚えていることには少々ショックを受けている。第二十二・二十一代所長となられ、西洋の著名な学者を多く招聘し共同研究を精力的に進められた安川昱先生もこの四月に逝かれ、今となっては創刊当時の裏話を教えていただくことができない。

バックナンバーを調べると、第五十輯に至るまでの道程がそう容易ではなかったこと、そして、海外の学者との交流が活発になってゆく様がよくわかる。一九七〇年には研究会が学生運動によって延期になったが、それでも第三輯は無事、刊行された。当時、学内で教員が炎天下、多数の学生に取り囲まれ自己批判を迫られていたのを思い出す。授業も試験もできなくなった。ちなみに、その翌年、『紀要』に初めて外国語による論文が掲載されている。文学部の小川悟氏の「Kafka in Japan - aus der Kafka-Bibliographie」とある。それから三年後の一九七四年には、『紀要』に外国人の学者が日本語で執筆した論文が掲載される。大庭脩先生が研究所に招き講演を依頼したケンブリッジ大学の日本中世文学の研究者D・E・ミルズ博士の特別寄稿「欧米における日本語教育と日本研究」である。一九八〇年になると、歴史研究班にオランダのフローニンゲン博物館員、C・J・A・ヨルク氏が、外国人として初めて委嘱研究員として加わり、陶磁器貿易に関する論文を英文で発表している。

この頃になると、関西大学は、より多くの外国人研究者を専任教員として受け入れ始め、東西学術研究所にも新しい学問の風を吹き込んでくれた。一九八三年は、執筆者五名のうち二名が外国人である。イギリス人のピーター・メイキン氏とアメリカ人のスコット・ジョンソン氏である。その後も、留まるどころを知らず、中国はもとより、トルコをはじめとして、文字通り世界各地より委嘱研究員、あるいは招聘研究者として優れた学者が次々と東西学術研究所を訪れ、その足跡を研究成果として『紀要』に残してきた。今では、国内外の大学院生を含む若い研究者たちもメンバーに加わり、各専門分野の研究を深めている。雨の日も風の日も授業や学内外での仕事をこなしながら、研究員たちがこつこつ積み上げた成果が、次世代に受け継がれ、東西学術研究所がますます発展してゆくことを大いに期待している。第百輯まで、百年続きますように…。

（和田葉子）

二〇一七年四月一日発行

発行 © 関西大学東西学術研究所

所長 内田慶市

〒五六四一八六八〇

大阪府吹田市山手町三丁目三番三五号

電話〇六一六三三八一〇六五三番

FAX〇六一六三三九一七七二番

編集者 関西大学東西学術研究所

編集委員長 和田葉子

編集委員 井上克人

長谷部 剛

印刷者 株式会社遊文舎